

琉球大学学術リポジトリ

プロクロロン共生ホヤDiplosoma midori(Tokioka 1954)の分類学的再検討

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-06-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 広瀬, 裕一, 岡, 篤, Hirose, Euichi, Oka, Atsushi T. メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/636

PS-8 プロクロロン共生ホヤ *Diplosoma midori* (Tokioka 1954) の分類学的再検討
(Is *Diplosoma midori* (Tokioka 1954) a valid species?)

広瀬裕一¹・岡 篤² (Euichi Hirose and Atsushi T. Oka)

¹琉球大学理学部海洋自然科学科, ²名古屋大学環境学研究科地球環境学専攻

熱帯・亜熱帯域に分布するジデムニ科のホヤには、プロクロロンなどの原核性藻類と共生する種が知られており、世界で約30種の共生性ホヤが報告されている。日本では、トカラ列島が本土復帰した直後に調査を行なった時岡隆博士によって、2種の共生性ジデムニ科ホヤ (*Didemnum* (*Didemnum*) *pulvinum* と *Leptoclimum midori*) が新種として記載されて以来 (Tokioka 1954)、南西諸島、小笠原諸島、紀伊半島南端から少なくとも15種の分布が確認されている。Tokioka (1954) が記載した2種のうち *D. (D.) pulvinum* は *Lissoclimium bistratum* (Sluiter 1905) の新参シノニムとされおり Kott (1980)、我々もトカラ列島において *L. bistratum* の分布を確認している。同様に *Leptoclimum midori* (= *Diplosoma midori*) を *Diplosoma simile* (Sluiter 1909) の新参シノニムとする見解があるが、*D. midori* の記載論文には有尾胚の形態や牽引筋についての記述がないことから、安易にシノニムと断定することはできない。残念ながら *D. midori* の模式標本 (syntype) は保存状態が悪く分類形質を確認することができなかつたため、我々は topotype specimen を調べることで、*D. midori* の分類学上の位置を再検討した。

2004年7月29日~8月3日に中之島と宝島において、スノーケリングによる調査を行なったところ、6種の藻類共生性 *Diplosoma* が採集された。これには未同定種も含まれている。現記載によると *D. midori* は "6665" の鰓孔パターンを持つが、6種のうち "6665" の鰓孔パターンを持つのは *D. simile* と *D. virens* の2種のみであった。このことから、*D. midori* は *D. simile* または *D. virens* (または両方の種) の新参シノニムである。と解釈するのが現時点では妥当であろう。両種は中之島・宝島で最も普通に見られる共生性 *Diplosoma* で、ほぼ同じ場所でも採集されているため、*D. midori* がいずれの種のシノニムであるかを推定することはできなかつた。*D. midori* の模式標本が syntype であることから、両方の種が標本に含まれている可能性もある。あわせて、今回採集された他の4種の共生性 *Diplosoma* の形態的特徴、特に特異な鰓孔パターンより未記載種と考えられる標本についても言及したい。